

ベトナム国ダナン市・グハンソン地区の地区病院を中心とする老年ケア・プログラム定着と人材育成事業（2018年7月～2022年6月）



「地域包括ケア・プログラム」の開発と人材育成

■ 実施団体：

学校法人岐阜済美学院 中部学院大学

■ 対象国・地域：

ベトナム社会主義共和国
ダナン市・グハンソン地区

■ 現地カウンターパート

グハンソン地区病院



■ 協力内容：

日本の「地域包括ケア」を参考にベトナム社会に対応するベトナム版「老年ケア・プログラム」を開発し、ダナン市内の医療関係者に普及することを目標に実施した。「老年ケア・プログラム」開発のため、地区病院内に5グループの学習会を組織し、日本から派遣したスタッフと共に『老年ケア業務マニュアル』・『普及用動画』を制作した。マニュアル等教材を使って医療関係者へ普及を図ると共に、グハンソン地区の高齢者、家族、ボランティア、地域住民などへの啓発と共助を呼びかけた。

■ 団体のこれまでの取り組み：

2015年から2017年まで岐阜県・関市と中部学院大学の協働により、草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）「ダナン市の看護職を対象とした老年ケア・キーパーソン養成事業」に取組み、ダナン市内の看護師に日本の老年ケア技術を伝え27名のキーパーソンを養成した。

■ 事業実施の背景：

ベトナムでは急速に高齢化が進み、慢性疾患など要介護者の増加が課題となるなか、高齢化に対応できる病院と地域保健センターの連携や人材育成が求められる。更に地域住民に対して、食事やアクティビティなど健康意識を高め地域ボランティア等住民参加の共助の仕組みをつくることが課題とされる。プロジェクトを始めるにあたって日本から保健師等専門職2名を派遣、現地で通訳など現地スタッフ2名を雇用、4名で現地事務所を開設、コロナ禍でも業務を継続し現地との信頼関係を築いた。

ベトナムの課題と成果

課題① 高齢化に備えた医療・看護・介護など老年ケアの知識・技術が開発途上にある。

成果① 「地区病院と地域保健センター、地域ボランティアの連携」「栄養・食事」「看護技術」「介護予防・アクティビティ」「ケアプラン」の5つの学習会を組織し『業務マニュアル』を作成し普及セミナーを開催した。

課題② 地区病院の上部機関であるダナン市保健局が大きな影響力を持つため、その関与を明確にする。

成果② ダナン市保健局と中部学院大学の間で合意書を交わし、プロジェクト管理ユニットを設置。活動を上部組織からも支援してもらうことで、市内への普及が強化された。

課題③ 新型コロナウイルス感染症拡大により、対面で伝えることが困難になった。

成果③ 学習会メンバーが『業務マニュアル』の解説用動画を作成、日本側からも日本の地域包括ケアを紹介する動画を制作し、ベトナムの関係者がオンデマンドで視聴できるようにデジタル教材を整えた。

事業の波及効果



新型コロナウイルスに負けないで、ベトナム版「地域包括ケア」の提案ができた！

- 地区病院スタッフ25名が学習会を重ねて『業務マニュアル』と解説動画を作成し、老年ケアのリーダーが育成された。
- 学習会メンバーが他の病院の研修会に招かれアンバサダーとして活躍している。
- 教材をデジタル化できたことからベトナム国内で多くの人が視聴できる。
- 教材は日本の介護・医療現場で働くベトナム人にも役立つものになっている。
- ダナン市保健局人口家族計画課において「介護実習・普及センター」が構想されている。